

社会貢献活動の推進

2023年度の進捗

延べ**255**件

自治体との災害時
協力協定の締結数
[2022年度：
延べ250件]

384百万円

社会貢献支出額合計
[2022年度：
416百万円]

延べ**61,475**人

社会貢献活動参加人数
[2022年度：
延べ58,767人]

50,178時間

社会貢献活動時間(※1)
[2022年度：
69,933時間]

- DENDOコミュニティサポートプログラムの推進
 - 「STEP」分野での活動の推進
 - 森林保全活動の拡大
- ※1 就業時間内の活動

〈関連ページ〉

P12 三菱自動車のマテリアリティ

P16、P18 マテリアリティ

社会貢献活動レポート

(WEB) <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/society/contribution/report/index.html>

基本的な考え方・方針

三菱自動車のビジョン・ミッションにもとづき策定した「社会貢献活動方針」に則して、多様化する地域社会の課題解決ならびに世界規模の環境問題である地球温暖化の防止や、カーボンニュートラル社会の実現に向け、当社事業所が立地する自治体や関連会社との連携・協働による社会貢献活動を推進し、持続可能な社会に貢献します。

社会貢献活動方針

三菱自動車は、「STEP『地域社会 (Society)』『交通安全 (Traffic safety)』『環境 (Environment)』『人 (People)』」の分野で、多様化する社会の課題に応えるため、従業員一人ひとりの持つ技術やノウハウ・製品を活用した継続的な社会貢献に取り組むことで、よりよい未来を描くことができる社会をめざします。



地域社会 - Society

地域のニーズに即した活動を通じ、地域社会の発展に貢献します。



交通安全 - Traffic safety

交通社会の安心・安全の実現に貢献します。



環境 - Environment

大切な地球環境の保全に貢献します。



人 - People

人々に寄り添い、笑顔あふれる生活の実現に貢献します。



ターゲット
● 10.2



ターゲット
● 11.5



ターゲット
● 13.1



ターゲット
● 15.4

社会貢献活動ロゴマーク

STEPの分野の活動の輪が中心から広がる様子を表現しています。



(WEB) <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/society/contribution/index.html>

2023年度の社会貢献支出額・内訳(※2) (単位：百万円)

項目	金額
地域社会	126
交通安全	5
環境	33
人	182
被災地・新型コロナウイルス感染症対策支援	36
支出額合計	384

※2 寄付金のほか、現物給付・施設開放などを金額換算したものを含む

地域社会 (Society)

DENDOコミュニティサポートプログラム

三菱自動車製品の特長を生かした活動として、自治体と災害時協力協定を締結し有事の際の車両の貸与など、自ら発電し、その電気を取り出して使うことができる「三菱のプラグインハイブリッド車 (PHEV)」を活用した支援を行っています。「PHEVの走るチカラ」と「電気のチカラ」で、地域の人々の暮らしの安心・安全を支えています。

活動紹介

1. 自治体との災害時協力協定

当社は、災害による停電が発生している自治体からの要請にもとづき、給電に活用できる『アウトランダー PHEV』などの電動車を速やかに被災地・避難所などへ提供できるよう、系列販売会社とともに、全国の自治体と災害時協力協定を締結する取り組みを推進しています。

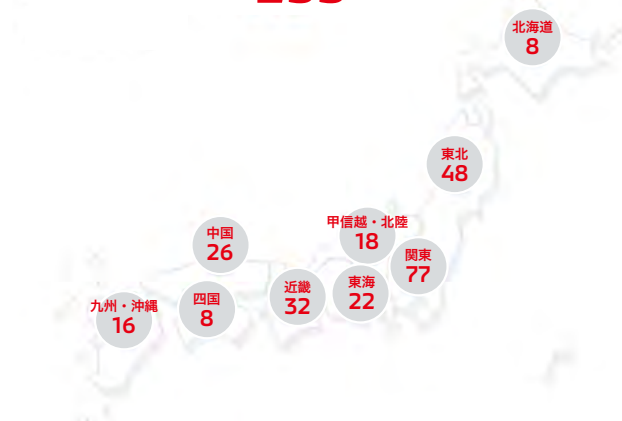
電動車の活用によって地域の皆様の安心に貢献できるよう、今後も自治体と連携した活動に取り組んでいきます。



東京都世田谷区 締結式の様子
(2023年11月)

全国自治体との締結状況 (2024年5月末時点)

締結中の自治体: **255** (※1)



◆最新の締結状況

(WEB) <https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/phev/dccsp/>
※1 系列販売会社と自治体 二者間の締結は除く

2. 国土交通省事業「電動車から医療機器への接続試験」に協力

自然災害などに起因する長期停電に備え、在宅で人工呼吸器などの医療機器を使用する医療的ケアが必要な方に対し、医療機器の電源確保が求められます。災害時、ほかに安定した電源が確保できない場合において、電動車から安全に医療機器へ給電するための注意事項を整理する目的で、国土交通省が主管する接続試験が実施されています。当社は、この試験に『ミニキャブEV』で参加協力(※2)しました。

接続試験の結果を元に国土交通省により「災害時における電動車から医療機器への給電活用マニュアル(2022年3月発行)」が改正され、主に自治体担当者や医療機器の使用者(患者本人及び本人の親族など)に向け公表される予定です。



電源供給する『ミニキャブEV』の様子 供給された電源を確認している様子

※2 接続試験をもって、『ミニキャブEV』の取扱説明書「100V AC 電源(1500W)(室内装備項目内)」に記載の「医療機器のご使用は、絶対に避けてください」との警告文の解釈が変更されることはありません。

3. 停電を想定した防災訓練において電動車から信号機へ給電

関東大震災から100年目にあたる2023年「防災の日」の9月1日、東京・丸の内周辺において官民連携した大規模な総合防災訓練が実施されました。

当社は、停電が起き信号機が滅灯した状態を想定し、電動車からの給電により信号機の復旧を図る「信号機滅灯訓練」に参加しました。当日は、滅灯した丸の内行幸通りの信号機2基に対し、警察官による手信号が行われた後、『アウトランダー PHEV』の車内コンセントへプラグを差し込み信号機へ給電が開始され、復旧を確認しました。



車内コンセントに接続している様子



給電により信号機を復旧している様子

4. カーボンニュートラル社会の実現に向けた包括連携協定を締結

三菱自動車は2023年11月に京都府京都市と「カーボンニュートラル社会の実現に向けた連携協定」を締結しました。協定を通じて互いの知見を生かし、2050年までにカーボンニュートラル社会の実現に向けて、様々な取り組みを共同で進めていきます。また、生産拠点を有する倉敷市、岡崎市ともカーボンニュートラル社会の実現に向けた連携協定を締結しており、それぞれの自治体とも取り組みを進めています。

連携協定を通じて、当社の電動車普及を軸に、脱炭素社会の構築に向け協力して取り組みます。

主な連携項目：

- (1) 地域のカーボンニュートラル社会の実現に関すること
- (2) 電動車の普及に関すること
- (3) 電動車が脱炭素化や災害の備えに有用であることの理解醸成
- (4) 前各号に掲げるもののほか、目的の達成に資するものであって双方が合意すること



京都府京都市締結式の様子
(2023年11月)



愛知県岡崎市と連携した自律型街路灯の実証実験開始
(2023年4月)

交通安全 (Traffic safety)

交通安全教室「クルマの学校」を実施

当社は、交通安全について「参加者と一緒に考え、一緒に学び、一緒に楽しむ、クルマの学校」を実施しています。

2023年度は運転時の誤操作による交通事故低減を目指し、自治体や販売会社、警察署と協働し、運転能力診断や自動車シミュレーター、運転席からの死角確認、セーフティサポートカー（サポカー）の踏み間違い衝突防止アシスト機能を体感する「サポカー同乗試乗」などを愛知県岡崎市、京都府京都市、岡山県倉敷市で合計5回実施し、約700人が参加しました。



サポカー同乗試乗の様子

事業所地域における交通安全活動

事業所周辺道路において、従業員による交通安全立哨を定期的に実施しています。2023年度は通勤・通学時間帯に通行車両や通行人への交通安全の呼びかけ、登校中の児童への交通誘導を行いました。また、地域の交通安全協会や警察署が開催する交通安全啓発イベントに参加し地域と連携した活動も実施し、各事業所合計で4回、延べ266人の従業員が参加しました。



従業員による交通安全立哨の様子

子ども向け交通安全啓発

ウェブサイト「みんな知ってる?交通安全クイズ」

当社は、子ども向けのウェブサイト「なぜ?なぜ?クルマづくり調査団」を常時開設しており、サイト内に、交通安全に関するページを設け、歩行中や自転車乗車中など、日常生活における交通ルールやマナーをクイズ形式で紹介しています。



「みんな知ってる?交通安全クイズ」

(WEB) <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/contribution/people/kids/anzen/>

環境 (Environment)

森林保全活動

森林保全を通じたカーボン・オフセットへの取り組みとして、2023年3月、岡崎製作所が立地する愛知県岡崎市と「森林保全活動連携協定」を締結し、同市の市有林を「岡崎アウトランダーの森」と命名し、森林保全活動を実施しています。

森林保全活動では、従業員の環境意識の醸成を図るための環境学習、間伐、植林、下草刈りなどを行っています。2023年度は、間伐・植樹を実施し、更に、参加した従業員の環境意識の醸成を図るため自然の中でフィールドワークを行いました。また、2006年より公益財団法人オイスカ

と協働し、山梨県早川町において森林保全に取り組む「パジェロの森」では、自然植生が復活し生物の多様性が高まっていることを確認したほか、従業員による間伐材を使った遊歩道の修復や延伸、森に訪れた人が小休憩できるよう、森の中に置くベンチづくりを実施しました。



間伐材を使用して遊歩道の修復や 植樹活動参加者による集合写真
延伸を行う参加者の様子

フィリピンにおける環境保全活動として苗木寄付

フィリピンの自動車部品生産拠点であるエイシアン・トランスミッション・コーポレーション（ATC）では、設立45周年の2018年度から5年間で累計25,000本の苗木を植えることを目標に、緑化活動に取り組みました。

活動6年目となる2023年度も緑豊かな環境を守るため、継続的に学校や自治体と連携して植林を行い、累計27,109本の苗木を植えました。

人 (People)

小中高生への教育支援

次世代を担う子どもたちへの教育支援として、小学生を対象に生産現場を体感できる工場見学の受け入れや、従業員が小学校を訪問して授業をする体験授業プログラム、中

高生が将来について考え、視野を広げるためのキャリア教育学習を実施しています。

2023年度は約30,400人の小中高生が参加しました。



小学生の工場見学

専門学校や美術大学と産学共同プロジェクトを実施

2023年3月より東京コミュニケーションアート専門学校主催の企業連携授業へ参画しました。

また4月からは多摩美術大学生産デザイン学科との産学共同プロジェクト（授業）を実施しました。当社デザイナーはオンライン及び現地で指導をおこない、学生たちは当社に向けて「将来の三菱ブランドから発売される車（仮題）」などをテーマに将来のブランド像を想像しながら新しいライフスタイルモビリティを企画し、提案しました。



デザイナーが現地で指導している様子

アジアにおける教育支援

タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシアにおいて、経済的な理由で学ぶことが困難な中高生や大学生への奨学金寄付や孤児院などへの学習ツール寄贈のほか、自動車業界における質の高い人材育成を支援するため、教材車両の寄贈やインターンシップの受け入れなどを実施しています。



タイにおいてチャリティーマラソンを行い、医療機関へ寄付

2023年度、タイにおける生産・販売会社であるミツビシ・モーターズ（タイランド）・カンパニー・リミテッド（MMTh）とNPO法人ミツビシ・モーターズ・タイランド・ファンデーション（MMTF）は「ミツビシ・モーターズ・チャリティー・ラン2023」を開催し、チョンブリ県ワット・ヤーナサンワララム病院へ医療機器購入支援のため、総額70万バートを寄付しました。



寄付の様子

ベトナムにおいて応急処置ワークショップを開催

2023年4月から5月、ベトナムの現地生産・販売会社であるミツビシ・モーターズ・ベトナム・カンパニー・リミテッド（MMV）は現地ディーラー及び応急処置教育を実施する現地NPO法人Survival Skills Vietnamと協力し、地域の小学校に通う児童や教職員を対象に、心肺蘇生などのワークショップを開催しました。2023年度は計3回、約530人が参加しました。



気道確保を行う参加者の様子

「三菱自動車STEP募金」及び「マッチングギフト」の実施

2009年4月に導入した「三菱自動車STEP募金」は、当社グループ会社の従業員が自らの意志で毎月、定額を募金し、継続的に社会貢献活動に参加する仕組みです。この募金では、当社の社会貢献活動方針にもとづき、開発途上国や東日本大震災被災地における活動などを支援しています。また、従業員の社会貢献意欲を大切にするとともに、より多くの支援につなげるため、「三菱自動車STEP募金」が行った寄付に対し、会社が同額を寄付する「マッチングギフト」を実施しています。



なお、募金及びマッチングギフトの支援先は、当社の社会貢献活動方針の重点分野との合致、事業の継続性、定期的な活動報告、実績などを参考に選定しています。また、当社従業員向けに支援先による報告会を開催するなど、支援先とコミュニケーションを図りながら活動につなげていきます。

当社及び「三菱自動車STEP募金」は、これらの支援を通じ、地域のニーズに即した活動を継続し、地域社会の発展へ寄与することを目指しています。

「森の積み木」プロジェクトを実施

子どもたちに木の温もりを感じながら、創造性を働かせて遊んでもらうことを目的に、当社が森林保全活動を行う山梨県早川町を中心とした地域のヒノキの間伐材で作った積み木を当社事業所近隣の幼稚園、保育園などに寄贈しています。

また、従業員が縁のある幼稚園などへ積み木を贈る「従業員プレゼンター制度」を実施しています。

2023年度は60カ所に寄贈し、2010年度からの累計は585カ所となりました。



ヒノキの間伐材で作った積み木

フィリピンにおいて中等学校校舎建設を支援

子どもの学習環境改善を目的に、国際NGOワールド・ビジョン・ジャパンと連携し、フィリピン共和国サマル州に中等学校1校を開校するための校舎を建設するとともに、テーブル付椅子40脚やプロジェクターなどの備品を寄付しました。



開校式の様子

被災地支援

自然災害などの緊急事態に際し、義援金の拠出、車両の無償貸与や従業員によるボランティア活動など、様々な支援を行っています。

令和6年能登半島地震への支援

令和6年1月に発生した能登半島地震の被災地復興支援として、1,000万円の義援金を寄付しました。

また、新潟県庁の要請により『アウトランダー PHEV』『エクリプスクロスPHEV』計2台を柏崎市のコミュニティセンターへ貸与し、停電地域における携帯電話の充電などに活用いただくほか、新潟県・富山県・石川県・福井県4県下の26箇所の新車販売店舗における「急速充電の無料利用サービス」及び「スマートフォンへの無料充電サービス」を実施しました。更に倉敷市からの要請を受け、『デリカD:5』1台を無償貸与しました。『デリカD:5』は被災した石川県珠洲市にて、被災者の健康管理支援を行う倉敷市職員の移動手段として、1年間活用されます。

大雨被害地にボランティアを派遣

2023年6月、梅雨前線及び台風第2号による大雨の影響により、愛知県東部の広い範囲で浸水し、同県岡崎市では一部地域が冠水するなどの被害が発生しました。被災地復旧に向けた家財撤去や土砂払いなどのボランティア活動が行われました。



床下の泥をかき出す作業

支援先	主な活動内容
■ 国際NGOワールド・ビジョン・ジャパン	開発途上国において、水・衛生、HIV/エイズ、マラリアなどの感染症予防を含む保健、栄養、教育や学校建設など、地域の課題解決へ取り組み、子どもたちが健やかに成長できる環境づくりを目的としている活動への寄付
■ 公益財団法人オイスカ	海外の子どもたちが苗木を植え、地球の緑化を進める活動への寄付
■ 事業所近隣の幼稚園、保育園など	子どもたちの知育玩具として山梨県の天然無垢なヒノキの間伐材で作った積み木と当社オリジナルのクルマ型ケースを幼稚園、保育園へ寄贈


 ターゲット
● 10.2

 ターゲット
● 11.5

 ターゲット
● 13.1

 ターゲット
● 15.4

ティア活動に従事するため、岡崎製作所の各部門から延べ206人（6日間）の従業員を派遣しました。

オーストラリアでの洪水被災地支援として、多数の車両を提供

2023年5月～7月、オーストラリアの販売会社であるミツビシ・モーターズ・オーストラリア・リミテッド（MMAL）は、洪水被害を受けた同国内各地域に対する緊急・復旧支援活動をサポートするため、同国の災害支援団体である Disaster Relief Australia（DRA）と協働しました。MMALは、DRAによる瓦礫除去・運搬を含む復旧支援活動をサポートするためピックアップトラック『トライトン』やスポーツユーティリティビークル『パジェロスポーツ』を含む30台の車両を提供しました。更に、同年5月と7月には同社CEOを含むスタッフ7人が災害ボランティアとして従事しました。

2023年度の主な支援

実施時期	支援内容	支援先
2024年1月	令和6年能登半島地震 ・義援金1000万円を寄付 ・『アウトランダー PHEV』『エクリプス PHEV』計2台を貸与 ・倉敷市と連携し『デリカD:5』を貸与	被災自治体
2023年5月～2024年3月	オーストラリアで大雨洪水が発生した各地域 ・『トライトン』『パジェロスポーツ』を含む30台を提供 ・災害ボランティア計7人が参加（2023年5月、7月）	オーストラリア災害支援団体 Disaster Relief Australia
2023年6月	梅雨前線及び台風第2号による大雨 ・従業員ボランティア延べ206人が岡崎市での土砂払いなどに参加	岡崎市

「災害時の支援」の詳細は、ウェブサイトをご覧ください。

(WEB) <https://www.mitsubishi-motors.com/jp/sustainability/society/contribution/relief/index.html>